

ハギ、ハギ、メドハギ、ムベ、ゴヨウアケビ、オカトラノオ、サクラタデ、ハルタデ、ヤワラスゲ、カニツリグサ、カデノキ、アキノハハコグサ、シモツケ、ムラサキシキブ、ヤマアイ、クララ、クルマバナ、タツナミサウ、サルナシ、カキドウシ、ハナイバナ、ウキノミツバ、ウマミツバ、ナラガシワ、アキチヨウジ、グンドボロギク、アカソ、アケメカシワ、シロダモ、トゲツバ、鉱物

結晶質石灰岩、石灰岩、輝水鉛鉱、黄銅鉱、方解石、黄鉄鉱、方鉛鉱、閃鋅鉱、磁硫鉄鉱、硫砒鉄鉱、水晶、

鉱山の概要

地質は石英内緑岩、石灰岩、頁岩及び片麻岩の古期の岩層を基底とし、之を被覆又は貫いて交切安山岩が広く分布し一部緑泥化するも、多く硅化して居る為極めて堅硬である。鉱床は古期岩層及び安山岩双方に胚胎する交代鉱床、接觸鉱床、鉱脈等で成因は種々ある様である。鉱床の形状は橢円形に近い塊状で鉱床と母岩との境界は明瞭でなく多く漸移的である。鉱床中又はその辺縁には南北に亀裂が多い。

鉱石の品位は亜鉛6%、鉛4%、銅1%、銀150~200g(1kg当り)である。

以上のように将来益々発展する余地がある。〔荒川九兵衛記〕

南條郡木ノ芽鉱山採集記

昭和28年9月19日木ノ芽峠越え採集会を同好会のく々と試みる。

昨夜来の雨も晴れて絶好の秋日和、7時55分福井発列車にて出発す。土曜日のせいか参加者意外に少く一行僅かに6名。大柵駅に下車、幸にしてニッ屋の木芽鉱山主と同行す。ベクイモ、ハギ等秋の草木の咲き誇る山道をニッ屋に進み、ニッ屋より左折して木ノ芽鉱山に向ふ。

終戦後長く休眠して吾に本山も、本年春より再開、目下新坑を堀穿中で将来有望との事。

鉱山に到着、見れば坑外には磁鉄鉱の山が出来、坑内夫は新坑道採掘準備中である。こゝで目ぼしいものを採集する。

午後一時木ノ芽鉱山を辞して木ノ芽峠に向ふ。午後三時頂上に着き、遠望の美景にリュックの重さも忘れ清水にのどをうるほして、秋日和の木ノ芽峠にしばしの名残を惜みつつ、一路新保に突進。

こゝで汗と重量の採集会を終える。

採集物

磁鉄鉱、紅柄、磁硫鉄鉱、褐鉄鉱、黄鉄鉱、

〔荒川九兵衛記〕